

南通経済技術開発区の投資環境のご紹介



南通経済技術開発区は 1984 年に設置され、中央政府が最初に批准された国家レベル経済技術開発区の 14 カ所のひとつであり、揚子江デルタの中核開発区のひとつでもあります。開発区が置かれてから 30 年が経過し、開発区は、“長江や黄海、上海に近い”という流通の利便性にも優れ、“ビジネス街としても住宅街としても見込みのある”投資において大変魅力的な環境として成長し、全力で経済のグローバル化を推進しています。開発区は、「上海 1 時間経済圏」においても、外資系企業の先端技術が集積された「揚子江デルタ」においても、重要な製造業基地へと発展を遂げました。世界 40 カ国や地域から 700 社ほどの外商投資企業が南通市に進出し、投資総額は累計で 150 億ドルを超えました。また、世界ランキング上位 500 社のうち、70 数社が南通市に進出し、それらの企業の技術レベルや製造能力は中国又は世界トップレベルに達しました。開

発区は、経済、社会、生態系の各面に優れて、発展実力を持つ地域として、今もなお急速に成長しています。

開発区では道路、上下水、電気、ガス、通信、汚水処理、埠頭等のインフラ施設が整備されていました。“四海家園”という4万人が入居可能な宿舍を建設し、世茂広場、日本イオンモール、米国のウェルマートサム店等の大型商業施設とテーマショッピングモールを導入したショッピングセンターも開発され、さらに面積の20万平米以上の都市中央公園が建設され、警察交番、学校、病院等の社会福祉施設も備えました。

開発区は産業の計画とクラスター発展を重視すると同時に、開発区の重点産業計画と産業分布計画を作成しました。電子情報、精密機械、プラント製造、新素材、新エネルギー、新型サービス分野等を重点産業として発展することを明確にし、重点産業の発展を掲げ「5+3」の産業園区を計画しました。即ち、“電子情報、精密機械、ヘルスケア消費財、プラント製造、新素材”の5つの先端製造業の産業園区と、「ビジネス区、ブランド商業区、総合保税区」の3大園区のことを指し、これらの産業の集約、規模、特色を図って推進しています。なお、南通総合保税区は2013年1月に国務院から許可を受け、12月に国から認可を受けて、正式に運行を始めました。

開発区は経済のモデルチェンジとアップグレードを継続的に推進しています。2013年ではGDPが400億人民元を超え、12%増加しました。一定規模以上の工業企業の工業総生産額は1440.9

億人民元達して、16.4%を増加しました。また、一定規模の工業増
加値は381.2億人民元を達し、12.6%増加しました。輸出入総額は
43.75億ドル、そのうち輸出が27億ドルで7.3%増加しました。全
社会消費品小売総額は78.2億人民元で、12.8%増加しました。固
定資産投資は351.8億人民元になり、22.7%増加しました。新しく
登録された外資投資額は9.31億ドルで、実際に利用されたのは
6.94億ドルです。新しく登録された中国国内資本は63.28億人民
元増加しました。

南通開発区は“投資者にサービス、投資者の利益”の宗旨を遂
行し、国際慣例と市場経済のルールを守り、国家級開発区でのベス
トなサービス環境を構築し、欠陥ゼロなサービスを開発区の基と道
標とします。引き続きサービスの理念を深め、サービス方法の改良
を重ね、企業誘致の競争力を強めていくと同時に、全力で、“誠実
開発区”、“グリーン開発区”、“平安開発区”を構築し、引き続
き企業の誘致、ビジネスの安定と繁盛に適合する“安全のオアシス”
を建設してまいりたく存じます。